

第九回生物多様性地域戦略改定検討会 委員発言

資料1

テーマ	主な意見	発言者
基本戦略Ⅰの行動目標		
	<p>生物多様性保全エリアの目標値の設定について、陸地の緑中心の表現に終始していることが気になる。30by30は海域の保全も目標値を設定しているので、海にもコミットするという姿勢を出すことは大切である。</p>	鶴田委員
	<p>基本戦略Ⅰの目標設定の立て方は足りていない。データの収集やモニタリングが弱いので、実際の保全に加えてデータの収集、モニタリングで基盤を作る事が必要である。また、データをデジタル化して継承する事、普及啓発の中でも人材教育、広報をきちんと行っていく事、パートナーシップ保全をきちんと行う事を目標の中に入れ込んでいかないといけないのではないかな。</p>	佐藤(留)委員
	<p>基本戦略Ⅰ行動目標①は、場の話と質の話を意識されていると思う。また行動目標②の新たな野生絶滅ZEROアクションはキャッチーでよいと思うが、野生絶滅させないだけが目標ではないと考える。ENやVU、NTのもののランクが上がることやランク外のものに絶滅リスクが生じることも課題ではないか。野生生物全体の減少を食い止めて回復を図っていく、というニュアンスが含まれているほうがよい。このためには、基礎的なデータの収集についても合わせて構築する必要がある。</p>	須田委員
	<p>30by30については東京都は達成しているが、日本の保全地域・保護地域と海外のそれとでは中身が異なる。日本では、保護地域内でも開発が出来ないエリアは特別保護区域だけであるが、海外では開発行為が国立公園全域で規制されているという現状がある。数字できちんと評価することも大事であるが、これに満足することなく、中身としての保全地域等を積み重ねていく必要がある。</p>	須田委員
基本戦略Ⅱの行動目標		
	<p>NbS事例を取り上げる際には、生物多様性を棄損するような事例だけでなく、持続的に利用できるかにも留意する視点が必要である。 東京ポートシティ竹芝は、この大きさの建物を立てたときに、やらないよりいいと思うが、NbS事例としては弱い気がしている。コリドーとしてだと、周りと同じ高さの建物で、屋上まで全部緑化したほうがよい。また、高い建物は海風を遮蔽してしまうためヒートアイランド現象にも寄与してしまう。例えば、葛西海浜公園は観光などの経済面の効果のほか、防災や水質浄化などの生物多様性の機能を可視化できる事例として良いのではないかな。</p>	鶴田委員
	<p>事例がポートシティ竹芝だけだと物足りなさがある。建物内部よりも竹芝新八景というのがこの施設の顔なので、こういったものを全面にPRした方がよいと思う。また、同時期にウォーターズ竹芝というのもできて水辺や干潟がある。干潟の整備は珍しいので、紹介してほしいと思う。森ビルも大きめのビオトープを住民と保全したりオオタカを呼ぶ森づくりをしている。</p>	芳賀委員

テーマ	主な意見	発言者
基本戦略Ⅲの行動目標		
	<p>都政モニターになれるのは18歳以上だったと思うので、もう少し若い世代にも意見を聞いてほしい。Z世代ではボイコットではなくバイコトというように、買い物で意識を表しているので、アンケート項目では消費行動に関することに対応できるとよい。</p>	細野委員
	<p>アンケートの調査項目について、6、9番目の取組は商品を選択するという部分で集約できるが、社会変革ということでは、日常行動だけでなく、生業や仕事すべてに対して生物多様性に貢献することを目標としていきたい。10番目の取組は家族に話すだけでなく、自分の行動を入れてほしい。</p>	鶴田委員
	<p>都民の方々一人ひとりに呼びかける意味では、都市ならではの取組が必要。間接的な貢献要素は都市ならではの取組(5~10)だと思うので、取組例としてあるのは良い。例えば、都市型の生活の中で生物多様性に貢献する取組としては、食べ物を残さない、産地に興味を持つ、モノを大切に使う、ちょっといいモノを買って長く使う、といったことが入ってくると良い。</p>	吉田委員
	<p>生物多様性に配慮・貢献する取組については単に農業だけでなく、低農薬や有機農業への取組といった記載の方が良いのではないかと考える。緑の食糧システム戦略に有機農業や環境保全型農業について書いてあるので、そういったものの記載を行動に書いていただければよいと思う。</p>	原口委員
	<p>生物多様性に資する行動は、書いてあることは分かるが、生物多様性に関心のない人からは、その行動が本当に生物多様性に貢献しているのか個人で評価するのが難しいとよく言われる。直接的なところ、間接的なものが入り子になっているのが整理されるといい。よくこういった概念を対象にすると原理主義的になってしまうことが多くある。どちらかにならないようにしてほしい。</p>	須田委員

第九回生物多様性地域戦略改定検討会 委員発言

資料1

テーマ	主な意見	発言者
その他全体に関すること		
	<p>来年度は、世界目標の採択、国家戦略の改定など大きな動きが国内外である。TNFDのフレームワークも出ると言われているため、自然関連情報開示に取り組むところも増えてくる、来年度は変化の一年になるので、ネイチャーポジティブや30by30などトレンドのキーワードも取り込んでいけると良いのではないかと。</p>	吉田委員
	<p>2030、2050目標では気候変動や再生可能エネルギーのことも連動しているが、現在の目標値が生物多様性保全側からの話しか記載が無いのが気になる。太陽光発電など地球温暖化と生物多様性保全の両方を配慮する必要がある。生物多様性だけだと面積目標で壁に当たってしまうので、その点を考慮してきちんと部局間調整をしてもらいたい。</p>	荒井委員
	<p>TNFDの開示草案が示された。草案では、事業をしている場所に紐づく自然への依存と影響を調べるところから始めるべきと言われている。企業が情報開示をしていく中で、都内企業が都内の自然にどう影響を与えているのか、又は貢献するには何をすればいいのかを模索していくことになる。都の計画にどこを目指しているのかが書かれていないと、企業もどうしたらいいかわからない。企業に誤解を与えないような事例の提供の仕方が必要かと思う。事業者にとっての目標設定のシナリオを作るとき参考資料となるような観点で点検してもらいたい。例えば、緑以外の湿地や河川などの目標設定がないと、事業者にとっての目標設定が進まない。</p>	原口委員